



# 薬学部だより

Faculty of Pharmaceutical Sciences, Tokushima University



徳島大学薬学部  
July 2020

Vol.26

## 巻頭言

### ■希望を胸に！



徳島大学薬学部長

佐野茂樹

Sano Shigeki

**新**型コロナウイルス感染症の感染拡大が続く中、今年度は薬学部（薬学科40名、創製薬科学科41名）、大学院薬科学教育部（博士前期課程創製薬科学専攻42名、博士後期課程創製薬科学専攻9名、博士課程薬学専攻1名）合わせて133名のみなさんを新しい仲間として迎えることができました。残念ながら「令和2年度徳島大学入学式」は中止となってしまいましたが、徳島大学薬学部の教職員を代表して、心からのお祝いと歓迎の意を表します。

さて、4月16日の夜には日本全国が新型コロナウイルス対策の特別措置法に基づく緊急事態宣言の対象地域とされ、新年度が始まって1ヶ月半が過ぎようとしている現時点において、対面での講義や演習、学生実習等は実施

できない状況が続いています。研究室での実験も滞っており、卒業論文や学位論文の作成にも大きな影響が出始めています。第I期の薬局実務実習は緊急事態宣言の発令により中断され、在宅実習へと切り替えられました。就職活動においても、対面での面接試験がWeb面接に変更されるなど、これまでとは異なる対応を余儀なくされています。徳島県外への不要不急の外出は制限され、県外に移動した場合には帰県後に14日間の自宅待機が求められます。特に学部新生の皆さんは、課外活動も禁止され、大学生になったものの何をどうしていいのか、手探りの状態が続いているのではないのでしょうか。数ヶ月前には誰もが予想だにできなかった事態に陥り、いつ元に戻るかも見通せない状況にあって、世界中の人々が不安、恐怖、苛立ちを感じ、大きなストレスにさらされています。

突如訪れた非日常的な生活の中にあって、英国のエリザベス女王のメッセージは、英国のみならず私たちにも希望と勇気を与えるものです。“Together we are tackling this disease, and I want to reassure you that if we remain united and resolute, then we will overcome it.” “This time we join with all nations across the

globe in common endeavour, using the great advances of science and our instinctive compassion to heal. We will succeed — and that success will belong to every one of us.”（4月5日のメッセージより抜粋）4月21日に94歳の誕生日を迎えられたエリザベス女王ですが、なおもかくしゃくとして公務に励まれ、イースターの前夜の4月11日には“ We know that coronavirus will not overcome us. As dark as death can be — particularly for those suffering with grief — light and life are greater. May the living flame of the Easter hope be a steady guide as we face the future.”と語りかけておられます。

新型コロナウイルス感染症の克服へ向けて、感染や重症化を防ぐワクチンや治療薬の開発が世界中で進められる中、改めて『創薬研究』を基盤とする薬学の重要性を再認識するとともに、薬系大学が果たすべき社会的責任の大きさを痛感した次第です。新型コロナウイルス感染症の早期の収束を祈念しつつ、薬学部の学生、教職員のみなさんと共に明るい未来を目指して、希望を胸に歩んで行きたいと願っています。